

科目名	シャシ整備 I		単位数	1	学科	自動車整備科		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	二級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能についての知識を身につける。							
授業の一般目標	整備士として必要なシャシの構造、作動等の知識を体得する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	二級自動車シャシ 二級ガソリン自動車 二級ジーゼル自動車 シャシ編(日本自動車整備振興会連合会)、三級自動車シャシ 日本自動車整備振興会連合会、シャシ構造 I (全国自動車大学校・整備専門学校)、シャシ構造 II (全国自動車大学校・整備専門学校)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. シャシ分野において、二級自動車整備技能登録試験の合格者と同等の知識を習得する。 2. 就職後に必要な整備士としての知識や社会貢献するための責任、倫理観を身につける。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業で行う確認試験にて、70%以上正解すること。できない者は放課後に補習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	第1章 総論	走行抵抗の各抵抗を理解する。又、駆動力と走行抵抗から最高速度や最大駆動力を読み、余裕駆動力を求め出せるよう、走行性能曲線図が読める。						
第2回	第2章 動力伝達装置	MTのクラッチ伝達容量がわかり、ATのトルク・コンバータの原理と性能曲線図が読める。速度比、トルク比、伝達効率が計算できる。						
第3回	第2章 動力伝達装置	プランナリ・ギヤ式4速ATの構成部品とプランナリ・ギヤの計算ができる。						
第4回	第2章 動力伝達装置	プランナリ・ギヤ式4速ATの動力伝達 P・N及びRレンジ、1レンジ1速・Dレンジ1速、の動力伝達の順序がわかり色塗りができる						
第5回	第2章 動力伝達装置	プランナリ・ギヤ式4速ATの動力伝達 Dレンジ3速、Dレンジ4速、Dレンジ2速、の動力伝達の順序がわかり色塗りができる						
第6回	第2章 動力伝達装置	電子制御機構と油圧制御機構概要とDレンジの自動変速線図が読める。						
第7回	第2章 動力伝達装置	ATのロックアップ機構、安全装置の作動や機構、ATの整備(ストールテストを含む)が説明できる。CVTの機構と作動が説明できる。						
第8回	第2章 動力伝達装置	差動制限型デファレンシャル、インタ・アクスル・デファレンシャルが説明できる。						
第9回	第3章 アクスル及びサスペンション	サスペンションの性能、ボデーの振動及び揺動、異音、乗り心地を説明できる。						
第10回	第3章 アクスル及びサスペンション	金属、エア・スプリング型サスペンションの特徴を説明できる。						
第11回	第3章 アクスル及びサスペンション	エア・コンプレッサの構成部品及び作動を説明できる。						
第12回	第3章 アクスル及びサスペンション	電子制御サスペンション…ショックアブソーバ式とエアサスペンションが説明できる。						
第13回	第4章 ステアリング装置	旋回性能(コーナリングフォースとスリップアングル)が説明できる。						
第14回	第4章 ステアリング装置	油圧式パワーステアリング…コントロールバルブ作動及びポンプの機構と作動が説明できる。						
第15回	期末試験	期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70% 小テスト15% 態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	中澤輝行			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/nakazawa-2/			

科目名	シャシ整備Ⅱ		単位数	1	学科	自動車整備科		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	二級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能についての知識を身につける。							
授業の一般目標	整備士として必要なシャシの構造、作動等の知識を体得する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	二級自動車シャシ 二級ガソリン自動車 二級ジーゼル自動車 シャシ編(日本自動車整備振興会連合会)、三級自動車シャシ 日本自動車整備振興会連合会、シャシ構造Ⅰ(全国自動車大学校・整備専門学校)、シャシ構造Ⅱ(全国自動車大学校・整備専門学校)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. シャシ分野において、二級自動車整備技能登録試験の合格者と同等の知識を習得する。 2. 就職後に必要な整備士としての知識や社会貢献するための責任、倫理観を身につける。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業で行う確認試験にて、70%以上正解すること。できない者は放課後に補習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ホイール及びタイヤ	ホイールの種類と機能、タイヤのたわみとバランスについて説明できる。						
第2回	ホイール及びタイヤ	タイヤの走行音、タイヤの異常磨耗について、種類や原因を説明できる。						
第3回	ホイール・アライメント	キャンバ、キャスタ、キングピン傾角について説明できる。						
第4回	ホイール・アライメント	トー、切れ角、サイドスリップ、軸スリップについて説明できる。						
第5回	ブレーキ装置	ブレーキの性能、制動距離、制動時の不具合現象が説明できる。						
第6回	ブレーキ装置	ABSの構成部品及び作動が説明できる。						
第7回	ブレーキ装置	トラクション・コントロールの構成部品及び作動が説明できる。						
第8回	ブレーキ装置	エア・油圧ブレーキの構成部品について説明できる。						
第9回	ブレーキ装置	ブレーキ・バルブ及び圧縮空気式制動倍力装置の作動が説明できる。						
第10回	ブレーキ装置	フル・エア式ブレーキについて説明できる。						
第11回	ブレーキ装置	エキゾースト・ブレーキ、エディカレント・リターダが説明できる。						
第12回	フレーム及びボデー	トラック・フレーム、モノコック・ボデーの特徴について説明できる。						
第13回	フレーム及びボデー	ボデーの安全構造及びフレームの補強について説明できる。						
第14回	総合復習 国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説						
第15回	期末試験	期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70% 小テスト15% 態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	中澤輝行		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/nakazawa-2/				

科目名	工作作業実習		学科名 (コース名)	自動車整備科 (四輪コース)			学年	1学年
授業形態	実習	学期	前期	開講年月	2024年4月	該当資格区分	国家資格	
教育課程 区分	必修	単位数	1	時間数	13時限	該当資格名称	一級・自動車・二輪自動車整備士	
科目の概要	各種機械工作機器・作業用工具等の使用方法、取り扱いを習熟させる。 電子工作から、プログラム制御を理解させる。							
科目の到達目標	機器類や作業用工具の取り扱いを習熟させ基本を理解させる。 電子工作から、プログラミングの基礎を理解させる。							
教科書名	基礎自動車整備作業 日本自動車整備振興会連合会 (令和4年10月 第一版6刷発行) 自動車整備工具・機器 全国自動車大学校・整備専門学校 (平成30年3月 改訂初版発行)			教材名	自作PPT 教科書PDF			
設備名・機器名	PC タブレット プロジェクター			関連サイト	なし			
関連前科目	なし			関連後科目	測定作業実習			
授業計画								
回	授業コマの主題(タイトル)		授業コマの到達目標				備考	
第1回	ねじ切り作業		タップ及びダイスの取り扱い、ねじのピッチについて理解する。 ボール盤の取り扱いについて理解し、安全作業を身につける。					
第2回	電子工作(プログラミング)		プログラミングの基礎を理解する。 電子回路を作成し、プログラムを書き込み、電子部品を制御する。					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点以上 及び 出席率90%以上 (実技試験 作品評価)								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①期末試験(筆記式・実技式)							なし	秀(S):100点~90点
②確認テスト(筆記式・実技式)							なし	優(A):89点~80点
③課題レポート(授業外)		2位				1位	15	良(B):79点~70点
④授業態度(授業参加状況)				2位	1位		15	可(D):69点~60点
⑤作品(課題の出来映え)						1位	70	不可(E):59点以下
⑥プレゼンテーション・発表 (相手の理解度)							なし	出席率未達は評定しない。
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位~降順。							不合格の場合	再試験を行う。

シラバス 作成者	喜多	シラバス 承認者	喜多	授業担当 教員	中澤輝行
担当教員実務経験紹介					
https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/nakazawa-2/					
更新履歴					
シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所		作成者	Check者(確認者)
改1	2024/2/5	様式変更	-	喜多	喜多
改2					
改3					
改4					
改5					

科目名	測定作業実習		学科名 (コース名)	自動車整備科 (四輪コース)			学年	1学年
授業形態	実習	学期	前期	開講年月	2024年4月	該当資格区分	国家資格	
教育課程区分	必修	単位数	1	時間数	27時限	該当資格名称	一級・自動車・二輪自動車整備士	
科目の概要	計測機器の基本的な取り扱い及び測定作業とその応用ができるように習熟させる。							
科目の到達目標	基本的な測定技術を習熟する。 安全な作業と整理整頓について理解する。							
教科書名	基礎自動車整備作業 日本自動車整備振興会連合会 (令和4年10月 第一版6刷発行) 自動車整備工具・機器 全国自動車大学校・整備専門学校 (平成30年3月 改訂初版発行)			教材名	自作PPT 教科書PDF			
設備名・機器名	PC タブレット プロジェクター			関連サイト	なし			
関連前科目	なし			関連後科目	測定作業実習			
授業計画								
回	授業コマの主題(タイトル)		授業コマの到達目標				備考	
第1回	測定機器の取り扱い		安全作業について理解し説明できるようになる。 ノギスを使用し各種部品等を測定できるようになる。					
第2回	測定機器の取り扱い		マイクロ・メータを使用し各種部品等を測定できるようになる。 ダイヤル・ゲージを使用し各種部品等を測定できるようになる。 シリンダ・ゲージを使用し各種部品等を測定できるようになる。					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点以上 及び 出席率90%以上 (実技試験 作品評価)								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①期末試験(筆記式・実技式)		2位				1位	70	秀(S):100点~90点
②確認テスト(筆記式・実技式)							なし	優(A):89点~80点
③課題レポート(授業外)		2位				1位	15	良(B):79点~70点
④授業態度(授業参加状況)				2位	1位		15	可(D):69点~60点
⑤作品(課題の出来映え)							なし	不可(E):59点以下
⑥プレゼンテーション・発表 (相手の理解度)							なし	出席率未達は評定しない。
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位~降順。							不合格の場合	再試験を行う。

シラバス 作成者	喜多	シラバス 承認者	喜多	授業担当 教員	中澤輝行
担当教員実務経験紹介					
https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/nakazawa-2/					
更新履歴					
シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所		作成者	Check者(確認者)
改1	2024/2/5	様式変更	-	喜多	喜多
改2					
改3					
改4					
改5					

科目名	電装実習 I		学科名 (コース名)	自動車整備科 (四輪コース)			学年	1学年	
授業形態	実習	学期	通期	開講年月	2024年4月	該当資格区分	国家資格		
教育課程区分	必修	単位数	5	時間数	80時限	該当資格名称	一級・自動車・二輪自動車整備士		
科目の概要	次の各装置について、学科授業と連動させた内容で構造作動を学習する。 電子・電気関係・電磁石・電磁誘導・半導体・バッテリー・始動装置・充電装置・点火装置・灯火装置・計器類・冷暖房装置								
科目の到達目標	エンジンやシャシにも電装品が使用されており、各分野に共通して電気の知識が必要となる。 二年生の実車授業の基礎となる装置単体を中心に電装品の知識を習得する。								
教科書名	基礎自動車工学 日本自動車整備協会連合会 (令和4年10月 第二版4刷発行) 三教自動車ガソリン・エンジン 日本自動車整備協会連合会 (令和4年10月 第二版3刷発行) 三教自動車シャシ 日本自動車整備協会連合会 (令和4年11月 第四版4刷発行) 三教二輪自動車 日本自動車整備協会連合会 (令和4年12月 第十版4刷発行) 電装品構造 全国自動車大学校・整備専門学校 (平成30年3月 改訂初版発行)			教材名	自作PPT 教科書PDF				
設備名・機器名	PC タブレット プロジェクター			関連サイト	なし				
関連前科目	工作作業実習・測定作業実習			関連後科目	電装実習 II				
授業計画									
回	授業コマの主題(タイトル)		授業コマの到達目標				備考		
第1回	サーキットテスタの使用法 電気の基礎 電圧、電流、抵抗 電気回路の測定		アナログ式のテスタを使用できるようになる。 デジタル式のテスタを使用できるようになる。 電圧、電流、抵抗値を正確に測定ができるようになる。 安定化電源、スイッチ、抵抗、バルブを使用して簡単な配線図通りに回路が組めるようになる。 また、テスタを使用しなくても電圧、電流、抵抗値が答えられるようになる。						
第2回	電気と磁気の各法則 コイルの誘導起電力 半導体、バッテリー(四輪車と二輪車)		右ねじの法則及び右手親指の法則を理解し、電磁石の極性が答えられるようになる。 フレミングの法則を理解し、コイルの回転方向及び発生する電流の方向が答えられるようになる。 ダイオード・ツェナダイオード・発光ダイオード・ホトダイオード・トランジスタ・コンデンサの各半導体の回路接続と点検ができるようになる。						
第3回	始動装置		アーマチュア・フィールドコイル・ブラシ・マグネットスイッチの各装置の点検ができるようになる。 スタータの無負荷特性テストが行えるようになる。						
	充電装置		ロータ・スタータ・ダイオード・ボルテージレギュレータの各装置の点検ができるようになる。 オシロスコープが取り扱えるようになる。						
第4回	点火装置		イグニッションコイル、ハイテンションコード、スパークプラグの点検が行えるようになる。 スパークプラグの状態を見て、熱価の選択ができるようになる。						
	灯火装置・計器類・ボデー電装		灯火装置の回路が組めるようになる。 適切なりレーを使用して、回路が組めるようになる。 燃料計を例にして、指針の動く原理が説明できるようになる。 スイッチの導通表を基にワイパの回路が組めるようになる。						
成績評価方法									
単位認定 総合成績60点以上 及び 出席率90%以上 (実技試験 60分)									
↓判定方法\該当する観点→			知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①期末試験(筆記式・実技式)			2位				1位	70	秀(S):100点~90点
②確認テスト(筆記式・実技式)								なし	優(A):89点~80点
③課題レポート(授業外)			2位				1位	15	良(B):79点~70点
④授業態度(授業参加状況)					2位	1位		15	可(D):69点~60点
⑤作品(課題の出来映え)								なし	不可(E):59点以下
⑥プレゼンテーション・発表 (相手の理解度)								なし	出席率未達は評定しない。
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位~降順。								不合格の場合	再試験を行う。
シラバス作成者	喜多		シラバス承認者	喜多		授業担当教員	三宅伸和		
担当教員実務経験紹介									
https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/miyake/									
シラバス更新履歴	更新理由		更新箇所			作成者	Check者(確認者)		
改1	2024/2/5	様式変更	-			喜多	喜多		
改2									
改3									
改4									
改5									

科目名	電装実習Ⅱ		単位数	5	学科	自動車整備科		
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	通期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	1年次に習得した基礎知識を土台に応用力を身に付け整備技術、能力の幅を広げる。 電気回路の故障診断に必要な外部診断機、テスタ類の取り扱いが出来る技術を習得させる。							
授業の一般目標	整備士として必要な電気の基礎を身に付け故障診断ができる技術を習得する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	基礎自動車工学(日本自動車整備振興会連合会)、二級ガソリン自動車 エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)、 二級ジーゼル自動車 エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)、電装品構造(全国自動車大学校・整備専門学校)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 配線図の読み取り方法							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。							
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	始動 充電装置	<p>実車を利用してスタータ・モータの脱着 車上点検・単品部品の分解、点検測定、組み立てが出来るようになる。オルタネータ、ボルテージレギュレーターの構造、作動 車上のオルタネータを脱着し発生電圧を測定、中性点ダイオード付きオルタネータ出力特性が説明できるようにする。</p> <p>ハイブリッド車等に使用されるジェネレータについて、制御方法を理解し説明できるようにする。</p>						
第2回	点火装置 空調装置	<p>点火時期の確認 車上点火装置の取り外し、各部点検、イグナイタの点検。 実車を使用してエアコンガスの入れ替え、各部部品名、役割の確認、コンプレッサの分解組付けが出来るようになる。</p> <p>ステッピングモータの制御方法を理解し、プログラミングにより動作させることが出来るようになる。</p>						
第3回	安全装置 故障探究	<p>実車両の不具合故障診断、点検 配線図の読み取り方法 車両取り扱いの方法</p> <p>プログラミング教材に独自のプログラムを書き込み制御できる様になる。 衝突被害軽減ブレーキ(自動ブレーキ)、自動運転の制御プログラムを理解し、プログラミング教材を自動運転で制御できる様になる。</p>						
第4回	総合復習及び、国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀(S):100点~90点
小テスト		○					評価なし	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良(B):79点~70点
授業態度			○		◎		15	可(D):69点~60点
発表・作品					◎		定期試験に含む	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	三宅伸和			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/miyake/			

科目名	総合実習 I		学科名 (コース名)	自動車整備科 (四輪コース)			学年	1学年
授業形態	実習	学期	後期	開講年月	2024年9月	該当資格区分	国家資格	
教育課程 区分	必修	単位数	2	時間数	40時限	該当資格名称	一級・自動車・二輪自動車整備士	
科目の概要	自動車の日常点検及び新車無料点検の内容を学習し、作業内容や点検結果を説明出来る応酬話を身につける。整備士として必要な知識でもある積載車(ウインチ)の取り扱いについて学習し安全作業を身につける。また、自動車以外の幅広い知識を身につける為、二輪自動車の構造を学習する。							
科目の到達目標	二輪自動車の構造を学習し、四輪自動車との違いを理解する。 自動車の日常点検及び新車無料点検を理解し、作業説明応酬話を身につける。 積載車(ウインチ)の取り扱いについて学習し、安全作業を身につける。							
教科書名	三級自動車ガソリン・エンジン 日本自動車整備協会連合会 (令和4年10月 第二版印刷発行) 三級自動車シャシ 日本自動車整備協会連合会 (令和4年11月 第四版印刷発行) 三級二輪自動車 日本自動車整備協会連合会 (令和4年12月 第十版印刷発行) 自動車定期点検整備の手引き 日本自動車整備協会連合会 (令和3年4月 初版発行)			教材名	自作PPT 教科書PDF			
設備名・機器名	PC タブレット プロジェクター			関連サイト	なし			
関連前科目	工作作業実習・測定作業実習			関連後科目	電装実習Ⅱ			

授業計画

回	授業コマの主題(タイトル)	授業コマの到達目標	備考
第1回	四輪・二輪自動車の日常点検	日常点検および新車無料点検の内容を理解し正確に作業できるようになる。 点検結果の良否を判断し不具合箇所については必要な整備作業をできるようになる。 点検で行なった作業内容を伝え点検結果をお客様に説明できるようになる。	
第2回	自動車の定期点検作業 (作業説明応酬話の実施)	定期点検の内容を理解し正確に作業を行えるようになる。 点検結果の良否を判断し、不具合箇所については必要な整備作業を行えるようになる。 点検で行なった作業内容を伝え、点検結果をお客様に説明できるようになる。	
	積載車(ウインチ)の取り扱いと二輪自動車の車載と固定方法、テールゲート・リフターの使用方法	積載車(ウインチ)等の安全作業を理解し実施できるようになる。 積載車(ウインチ)の取り扱いを習得し作業できるようになる。 二輪自動車の車載方法を習得し作業できるようになる。 積載車(ウインチ)の取り扱いを習得し作業できるようになる。	

成績評価方法

単位認定 総合成績60点以上 及び 出席率90%以上
(実技試験 60分)

↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①期末試験(筆記式・実技式)	2位				1位	70	秀(S):100点~90点
②確認テスト(筆記式・実技式)						なし	優(A):89点~80点
③課題レポート(授業外)	2位				1位	15	良(B):79点~70点
④授業態度(授業参加状況)			2位	1位		15	可(D):69点~60点
⑤作品(課題の出来映え)						なし	不可(E):59点以下
⑥プレゼンテーション・発表 (相手の理解度)						なし	出席率未達は評定しない。
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位~降順。						不合格の場合	再試験を行う。

シラバス 作成者	喜多	シラバス 承認者	喜多	授業担当 教員	中澤輝行
担当教員実務経験紹介					
https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/nakazawa-2/					

シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)
改1	2024/2/5	様式変更		喜多
改2				
改3				
改4				
改5				

科目名	総合実習Ⅱ		単位数	3	学科	自動車整備科		
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	自動車の定期点検整備の内容を学習し、作業内容や点検結果を説明するだけでなく整備士として、お客様へ車のメンテナンスや安心安全へのアドバイスが出来るよう接客応酬話法を身につける。日々進化する自動車の自動運転や自動ブレーキ技術に使用されている電装部品(センサなど)に対しての、調整方法を学習し実施する。また、自動車の点検方法だけではなく二輪自動車の点検方法を理解し知識を身につける。							
授業の一般目標	二輪自動車の点検方法を学習し、四輪自動車との違いを理解する。 自動車の定期点検整備の内容を理解し、お客様への適切なアドバイスが出来る接客応酬話法を身につける。 自動車の最新技術に使用されているセンサなどの調整方法を理解し作業が出来るようになる。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	自動車定期点検整備の手引き(日本自動車整備振興会連合会)、二級二輪自動車(日本自動車整備振興会連合会)、 シャン構造Ⅰ(全国自動車大学校・整備専門学校)、シャン構造Ⅱ(全国自動車大学校・整備専門学校)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 定期点検整備を記録簿に基づいて点検の流れや項目を理解し、作業や各 부품の良否判断が出来るようになる。 2. 四輪自動車と二輪自動車の点検整備の違いを理解する。 3. 自動車の最新技術に対して必要な作業と知識を身につける。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。							
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	二輪自動車の点検作業	二輪自動車の点検整備内容を理解し正確に作業を行う。 点検結果の良否を判断し、不具合箇所については必要な整備作業を行う。 点検で行なった作業内容を伝え、点検結果をお客様に説明する。						
第2回	定期点検整備作業 (接客応酬話法の実施) 車載カメラの調整 (エーミング作業について)	定期点検整備作業(12ヶ月点検)の手順を理解し良否の判断を行う。 特定整備の概要説明、各メーカー車両にて点検作業を実施する。 お客様へ車のメンテナンスや安心安全へのアドバイスを行う。 インカムを使用し、実際の現場に即した実習を行う。加えてタブレットを活用したアドバイスの実施や提案が出来るようになる。						
		最新技術に使用されている、車載カメラやセンサの調整作業。						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀(S):100点~90点
小テスト							15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品					◎		評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	中澤輝行			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/nakazawa-2/			